

令和7年度第1回十和田市総合教育会議 会議録

日 時 令和7年12月24日 午前10時00分より
場 所 十和田市役所 本館4階 大会議室

出席者 十和田市長 櫻田 百合子
十和田市教育委員会 教育長 丸井 英子
" 教育長職務代理者 坂本 稔
" 委員 深瀬 郁子
" 委員 小笠原 拓司
" 委員 中村 豊

十和田市教育委員会事務局 教育部長 浦田 陽子
" 指導課長 江渡 勇
" スポーツ・生涯学習課長 坂下 淳
" 教育総務課長補佐 櫻田 悟
" スポーツ・生涯学習課長補佐 松尾 五月
" スポーツ・生涯学習課 係長 若澤 恭子
" スポーツ・生涯学習課 指導主事 小森 誠

教育部長	<ul style="list-style-type: none">本日は、ご多用にもかかわらず、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。ただ今より、令和7年度第1回十和田市総合教育会議を開催いたします。はじめに、市長からご挨拶をお願いいたします。
市長	あいさつ（略）
教育部長	<ul style="list-style-type: none">ありがとうございました。続きまして、本日ご参会の委員を紹介いたします。（略）
教育部長	<ul style="list-style-type: none">続きまして、次第2の議事に入りますが、ここからの進行は市長にお願いしております。市長よろしくお願ひします。
市長	<ul style="list-style-type: none">それでは、次第2の議事に移らせていただきます。「十和田市の社会教育」について、事務局から当該事業の説明をお願いします。
小森指導主事	説明（略）38分
市長	<ul style="list-style-type: none">ご説明ありがとうございます。ただいま、事務局から説明がありました。委員の皆様、ご意見等はございますか。
坂本委員	<ul style="list-style-type: none">まず、資料が膨大で大変だったかと思いますがよくわかりました。今後の展望のスライドに見えてきた課題とありますけれども、点数をつけるとしたら今は何点くらいでしょうか。また、どれくらいまで引き上げたいですか。

小森指導 主事	<ul style="list-style-type: none"> 自己採点でいきますと、70点をつけたいと思います。課題は30点で、最終的には90点までにはあげたいなと思います。
深瀬委員	<ul style="list-style-type: none"> 私は親の立場として、子どもが小さい時に色々な行事に参加させたのですが子どもも充実した顔で帰ってきて、すごくいい活動に参加させていただいたと思いました。一つ思うのは、参加する顔ぶれがいつも同じになってしまう。熱心な親は何でも参加させるけれど、興味のない親は全然知らないという感じなので、もっと広く周知して、より多くの子どもを参加させるように取り組んでいただきたいと思いました。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> 今の発表を聞き、子どもたちの力を育むのにプラスになっているを感じています。私の実家の地域もかなり高齢化しているのですが、地域の人が子どもたちの活躍や一緒に活動するのを見るだけでも元気になると言っていたので、社会全体で関わりながら社会を作っていく取り組みは非常に大事だし、よくやられているなと感じています。質問ですが、「学びの循環がある地域づくり」が具体的に地域と関わりながら学びの循環がどう発展していくのか。また、教育委員会が主導してこういう取り組みをやっていますというの分かるのですが、実際に田舎暮らしをしてみると、自分たちで自分たちの地域を明るくしていこうとか、地域の子どもたちを育てていこうという前向きな考えになると盛り上がってくるのかなと思うので、地域がそれぞれ活動するところへのサポートについて何かお考えはありますか。
小森指導 主事	<ul style="list-style-type: none"> まずは学びの循環がある地域づくりについては、実際に社会教育事業に関わっていて、学んだことを参加者の中で振り返って、それを次の場面で活かせる機会や仕組みを作っていきたいと考えています。地域にアプローチする教育委員会の取り組みですけれども、現状ではあまりない状況です。
松尾補佐	<ul style="list-style-type: none"> 補助金を出したり、共催するなどして、例えば青少年十和田市民会議と連携して育成活動を行っていたり、こども会連合会に補助金を出したりという中でリーダー研修会を行ったりというものがあります。また、地域学校協働活動では、学校側からの要望だけではなくて、地域側の「子どもたちと連携したい」という要望にもお答えしていて、例えば青年会議所が猫の殺処分を減らすような取組みをどこかの学校と一緒にやりたいということで、小中学校に声掛けをしたことはあります。なるべく私たちも地域側も子どもたちと一緒に活動していますよというのを出していきたいと思っています。一本木沢ビオトープの活動もそういったものに含まれるかなと思います。
教育部長	<ul style="list-style-type: none"> 補足いたします。教育分野ではないのですが、民生部で市民活動支援事業を行っております。例えば今年度は東地区のコミュニティが母体となって防災をテーマに一泊、避難や生活を体験しながら、地域住民、かなりのご家族が参加しております。民生部ではこうした取り組みに対して補助金を用意し支援しており、南地区では、南小学校と連携して「仲良くなれ」という地域とともに芸術活動をコミュニティセンターを活用して展覧会をやったり、高名なグループを呼んだりして、地域と一体となった活動も行っておりますので、我々もこうしたところと協力連携しながら幅広く進めていきたいと考えています。

中村委員	・やっぱりいろんな各地域の情報が集まてくるのは、こういうお仕事をされているところだと思うので、情報提供をしていただいて、じゃあうちでもやってみたいというのが広がっていけばいいなと思います。
市長	・ほかにご意見・ご質問等はございますか。 それでは、次第2は終了いたします。 次に、次第3その他に移りますが、教育行政の全般についてのご意見ご質問等ございましたらどうぞ。
坂本委員	・今日のお話の中にもありました、学校と連携しながら進めていくというのは、とても大事なところだと思っております。子どもたちのことを思うと、学校と一緒に進めていくというのは、地域の人にとっても子どもたちにとってもとても大切な視点だと思います。地域の方々がいて、僕たちもいろいろなことができるんだなという体験もありますし、地域の人にとっても子どもたちのためにやっているようで、実は自分達が喜びを得られる貴重な時間になります。こうした視点を大事にして進めていただければと思います。
市長	・そのほかございませんか。 それでは、私から一言。 お分かりいただけていると思いますが、委員の皆様に今日こうやって発表させていただきました。本当に子どもたちに何か体験させてあげるという事業は、教育委員会、学校の先生方、職員も一生懸命やって、関わりが必要になってくるのですけれども、例えば、体験型とかの事業を行うときに、思ったとおりに進まなかったことも結構あって、臨機応変に職員には頑張っていただいている。その成果があって、十和田市の子どもたちは学力も高いですし、質の高い教育活動を提供できています。これは全国に引けを取らないと思っています。ですから、今日の事例をこの場で終わらせず、どんどんお出かけをしていって、保護者の目にも留まるように発信してほしい。説明は短くてもいいんです。協働のまちづくりを進めていくうえで、絶対に大切なことですので。これはいろいろなコミュニティにもお出かけしていく、子どもたちと活動していることをまずは知ってもらうこと。そして、例えばこども議会やにんにくの植え付け、子供達によって得意分野、不得意分野があります。ですから、そこに関しては、学校の先生がそっと背中を押してほしいと思います。全ての子どもたちが経験できるような仕組みがあるとしても、そこに足が向く子どもたちが少ない場合は、おせっかいでも先生が声掛けをして、そういったことは教育委員会が主体となってやらなければ。経験をさせて失敗をする、これも結構なことです。こうした活動が、笑顔に結びつかなくてもいいのです。こういったことは、将来大人になっていく上での主体性を育むために大切ですので、そういう方向性をもってこれからも頑張っていただきたいと思います。
教育部長	・ありがとうございました。 以上をもちまして、令和7年度第1回総合教育会議を閉会いたします。 本日は貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。